

令和5年度（2023年度）第2回宝塚市男女共同参画推進審議会 会議概要

1 日 時 令和6年（2024年）3月4日（月）午後3時～5時

2 場 所 宝塚市役所 1-1 会議室（zoom 会議）

3 出席者

（1）出席委員 委員10名中9名出席

大東委員 澤田委員 塩川委員 杉山委員 中村委員

西中委員、濱田委員、開本委員 正木委員

（2）事務局

中出部長、吉岡室長、山下課長、池澤係長

（3）その他

指定管理者 山田所長

4 全体進行

- ・会議の成立について（委員の過半数が出席）
- ・傍聴者について（傍聴希望者なし）

5 審議事項等

（1）男女共同参画センター指定管理者評価について

（2）入札参加資格者名簿への登録申請事業者に対する男女共同参画の取組に関するアンケート結果について

（3）DV対策の取組状況について

主な意見等

（1）男女共同参画センター指定管理者評価について

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

委員 資料1-6 独自評価様式（男女共同参画センター独自の事業に関する評価）で、利用登録グループ数の状況の評価について、利用グループが少ないから評価が低いと説明があったが、利用登録グループについて、休止や退会により、グループ数が減る状況を止めることはできなかったのか。

事務局 高齢化等でグループ数が減る状況であり、止めることも難しく今の現状となっている。

委員 同資料の利用グループ数について、評価がBだからといってグループ数を増やそうとすると、男女共同参画に関係ないグループも入ってくることも想定される。交流会で男女共同参画の啓発が必要となってくる。団体の育成、ネットワークづくりを検討していかなければならない。

委員 資料1-5 令和5年度施設管理運営事業評価票の指定管理業務にかかる

収支状況で、支出の項目で再委託があるようだが、どういうものを委託しているのか。

また、参考資料1-2利用満足度調査のアンケート結果を見ると、調査回答者の年齢層が高い。

指定管理者 再委託については、相談事業や清掃業務、一時保育などを委託していることから計上している。

利用満足度調査回答者の年代別集計においては、40代、30代の方々は孤立している状況で、男女共同参画センターにきていただきやすい年代である。この年代を対象にした講座では、参加者同士がつながりやすい講座をやっていて、チラシも工夫している。20代に男女共同参画センターでグループ活動をしていただくことはなかなか難しい。若い世代にも男女共同参画センターを知っていただくために、令和5年度は、男女共同参画プラン推進フォーラムにおいて、講師として伊藤詩織さんに来ていただいた。

事務局 利用者は高齢化している状況である。若い世代には、まずは、男女共同参画プラン推進フォーラムなどに来ていただきたいと思う。令和5年度は、男性セミナーとして「パパのつどい場」なども実施した。令和4年度にもパパたちを応援する講座を行った。若い世代にも、男女共同参画センターに来ていただけるよう工夫をしたい。

委員 若い世代に男女共同参画センターに来てもらうには、学校等と連携し、大学生など若い人に考えてもらったほうがよいのではないかな。フリースペースで自習している学生も巻き込んで、包括協定を行っている大学と何か実施してみてもどうか。

事務局 男女共同参画センターの事業は、男女共同参画プランに基づいて行っている。若い人との連携も、指定管理者とともに考えたいと思う。

委員 男女共同参画センターの場所を知ってもらっているだけでも有効だ。

委員 西宮市男女共同参画センターウェブも、学生が多い。

委員 世代間交流として、シニア世代と若い人との交流できればいいと思う。

指定管理者 エルフェスタなど子育てファミリーに来ていただくイベントもあり、このようなイベントをきっかけに世代間交流を行っている。

会長 若い人の意見もいただきたい。

委員 (オンラインが途中で切れて退出されたため、メールでご意見をいただきました。)

男女共同参画センターで次のような取組をすれば、シニアから若い世代まで巻き込めるのではないかと思います。

「不登校の親へのエンパワメント」男女共同参画の1つの事業提案

目的：登校拒否の児童・生徒に関して、不登校は社会へのひとつの警告という見方を提供し、親のつながりを作ってエンパワメントをする。

学校に行って当たり前という社会通念があるなかでは、「うちの子は登校拒否」とは、なかなか言えない。しかし、今はだんだん当事者発信の時代になってきて保護者のネットワークが生まれている。「学校には行かない親の会」などのメンバーに耳を傾け、親の役割を考えてもらう。

4 回連続講座

- ① 「不登校は社会への警告」山田潤（学校に行かない親の会）
- ② 「不登校の子どもの居場所・進路」（NPO 法人ともにいきる宝塚）
- ③ 「今だから話せる私の不登校」（市内で社会人になった2世代の経験）
- ④ 「一人で悩まないで！つながりを」（宝塚トウキョウコーヒー）

（2）入札参加資格者名簿への登録申請事業者に対する男女共同参画の取組に関するアンケート結果について

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

委員 回収率を見るとアンケートに答えている事業者は、男女共同参画に興味がないところではないか。

事務局 答えやすい方法として、二次元コードなども検討したい。

委員 女性の非正規従業員の割合と同じく、女性の正規職員の割合も従業者規模ごとに集計する必要がある。

委員 回答率の低さなど意味がないのではないか。
インセンティブ等について、検討してはどうか。

事務局 インセンティブは難しい。

委員 回答数が少ないと意味がある数値になってこない。

委員 2007 年度からアンケートを実施しているが、それ以前と比べてどうか。
出前講座を利用したところはあるのか。

事務局 以前より増えている。出前講座をしたこと等について加えたい。

委員 講師派遣でこんなことができる等、二次元コードをつけるとよいのではないか。

（3）DV対策の取組状況について

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

委員 DV相談に行けない人もいるかもしれない。

事務局 広報誌、HP、SNS、LINE、市役所、公民館、男女共同参画センター、人権文化センターの女性トイレに設置している生理用品に同封している相談カード等で、相談窓口の周知を行っている。

会長 国の相談等もあるのではないか。

委員 DV相談プラスで男性からの相談が12%ある。支援から残されてしまわないようにしてほしい。男性被害者が逃げたいと言った場合どうなるのか。

事務局 福祉事務所で確保しているホテルがあるので、困窮されている方の場合、状況にもよるが対応することができる。

委員 LGBTQの方の相談は、受けているのか。

事務局 相談の対象者としている。

委員 コロナ禍が明けて、家族等で一緒にいる時間が少なくなった。DVの被害がないように願う。